

一〇一三年六月二日

一〇一三年五月二九日

梅雨出水憎し畠は池となり

千鶴

鐘の音の滲む卯の花腐しかな

千鶴

肩車されて揃ひのアロハシャツ

なつき

木の瘤に成りすましゐる墓

かえる

梅雨湿りして嵩なせる書類かな

もとこ

一〇一三年六月一日

一〇一三年五月二七日

万縁を跨ぐ弁柄色の橋

せいじ

臥す夫に聴かせぬ話木下闇

たか子

一〇一三年五月三〇日

毎日句会みのる選・一〇一三年六月四日

花菖蒲分けて棹さす潮来舟

智恵子

一〇一三年五月三〇日

梅雨深し仏足石に漲りて

なつき

雨晴れてビニール傘に虹透ける

素秀

青空へ万歳をして袋掛け

みきお

昼ともし洩るる学び舎梅雨深し

満天

捲らぬ農に恨めし梅雨の空

千鶴

万縁の山を貫くハイウェイ

みきえ

風涼し楠の大樹の陰に入り

ぽんこ

仁王立つ横綱の背へ大団扇

たか子

たか子

たか子